

第4回「ATAMI2030会議」

熱海リノベーションまちづくり実行委員会

日時 平成29年12月5日(火)

18:00～20:30

場所 naedoco

熱海市銀座町 6-6 サトウ椿ビル 2F

昨年度熱海市では「リノベーションまちづくりと融合した創業支援による地域活性化」事業の一環として、リノベーションまちづくり構想を策定しました。

本年度は策定した構想を実現に移すべく不動産オーナーや有識者による委員会を設置し、年度5回の公開型会議を開催いたします。この会議は、市民や民間事業者、創業希望者など様々な方にご参加いただき、2030年を見据えた熱海の「暮らし」「仕事」「ツーリズム」を考え、行動に移すきっかけの場になりたいと考えています。

第4回目は「アートと人と街と」をテーマに、ゲストによるトークや事業者によるミニトークを行った後、会場を交えた意見交換を行いました。

○次第

1. あいさつ・・・熱海市観光経済課長 立見 修司
2. 今回テーマの説明・・・熱海市観光経済課産業振興室 主任 小林 久紀
3. ゲストトーク「アート×産業×コミュニティ」
東京藝術大学絵画科教授 中村 政人 氏
4. 実践者ミニトーク
MOA 美術館経営企画室係長 泉山 茂生 氏
ATAMI ART EXPO 事務局・グラフィックデザイナー 豊田 祐次 氏
アタミアートウィーク共同代表 田坂 和実 氏・渡邊 昌平 氏
驚きの学校代表・アートコーディネーター 古原 彩乃 氏
混流温泉株式会社代表取締役 戸井田 雄 氏
5. 感想共有
6. 会場も交えた意見交換

○内 容

まず初めに、第4回「ATAMI2030会議」の開催にあたり熱海市観光経済課長立見からの挨拶に続き、市の担当者から今回のテーマ設定、「アートと人と街と」の説明が行われました。

その後、ゲストトークとして「アート×産業×コミュニティ」と題し、東京藝術大学絵画科教授の中村政人氏による、アートがもたらす産業やアートを通じてのコミュニティのお話をいただきました。

その後、実践者ミニトークが行われ、MOA 美術館経営企画室係長の泉山茂生氏、ATAMI ART EXPO 事務局・グラフィックデザイナーの豊田祐次氏、アタミアートウィーク共同代表の多摩美術大学絵画学科油画専攻2年田坂和美氏・武蔵野美術大学造形学部建築学科3年渡邊昌平氏、驚きの学校代表・アートコーディネーターの古原彩乃氏、混流温泉株式会社代表取締役戸井田雄氏のお話をいただきました。

そして、小グループに分かれ感想共有を行った後、委員を含め約100名の参加者による意見交換が行われました。

清水座長から中村氏に対して、熱海市でこんなことをやったら面白いのではないかということについて意見を求めるところから意見交換がスタートしました。

→第一印象は文化的には寛容度がすでにあり、深いということ。第二印象はまちのなかに非日常的イメージが突出している。熱海のイメージは少しずつ変わっていると思うが、やっぱり熱海の温泉街の中では日頃のぎすぎすした関係を越えて、非日常の豊かさを感じたくて来るのだと思う。非日常感とアートは親和性が抜群によい。三つ目は今日のこの場の集まりは何でこんなにいい人が集まっているのか。この状況が熱海のカだとすると、外の人が多いと思うが内側で支えてくれる人がいて、外から移住してきた人が第一世代とすると、その子どもの第二世代の時代になると街が一步進んで変わっているイメージができ、すごく動きを感じた。非日常的な空間がすでにあるということは相当に有利。インバウンドの人が日本の中でピンポイントに行きたい場所の一位はずっと金閣寺であった。しかし最近浅草の浅草寺に変わった。話を聞くと浅草寺にはお店があって、体験があり、いわゆる体験観光的なものがプラスされている。この動きの中で考えると熱海だとピンポイントの熱海が非日常性を捻出しながら海外の人たちに温泉と何か他のものをもたらす。アートの型の狭い意味で考えずに大きな日常ぐらいでいけるというイメージが感化されると浅草寺を抜く。そんな印象を持った。(中村氏)

→文化と産業を繋げる、あるいはこの熱海に文化を作る人を呼び集めることが一番大事だと思うが、良い策はないか？(清水座長)

→立ち位置で違うが、まず行政側で考えた場合はこれを続けていくための策が必要。行政の続けるための一番はっきりしたフレームは条例。熱海市の中で文化芸術における条例はあるのか？(中村氏)

→文化における条例はおろか観光に関する条例すらない。(立見課長)

→3331の例ですと石川区長が、廃校になった施設を文化施設にしたいとなった時に東京の超一等地で広大な面積だから通常マンションにでもして設けたいと思うが、それを食い止めるために条例を作り、学校を文化施設として運用していくとした。また、条例の中にアートスクウェア構想を出した。その中で答申を出し方向性を示した。それがあったがゆえに3331を立ち上げた時に、議会の政治的バランスでは区長は弱い立場だったが、条例が作られていたことで民間も安心して進められるようになった。ぜひ熱海市も少なくとも観光と産業そして、文化を含め条例化する火種をみなさんと作り、言葉にして

いってもらいたい。(中村氏)

→制度は実は社会的な大事な資本。制度を変えること、新しい制度をつくることで熱海市の未来が創られるということ。しかもこれにはお金がさほどかからない。行政が行う投資としては将来性がものすごく作られる基盤である。真剣に検討してもらいたい。(清水座長)

その他意見

- ・熱海を東洋一の温泉地にすることが目標で、自分のできることとして熱海のちょっとした残念な景色を熱海らしい景色に変えることをビジネスにしたいと思っている。また、ちょっと思いついたことが「熱海ホワイト」や「熱海ブルー」「熱海オレンジ」など熱海カラーを作って熱海らしさを演出できたりすると面白いと思った。
- ・アタミアートウィークの方に質問で、企画を行う際にまちの方とトラブルになったと聞いたことがあるが、なぜそうなったのか？まちの人と学生がやりたいことが異なったのか、学生がやりたいことを主張しすぎてまちの人が引いてしまったのか聞きたい。
→全てのことを把握している訳ではないが聞いている話だと、作品を出したときに大家さんにとってそれがショッキングな作品であり、トラウマになってしまった。それは大家さんとのコミュニケーション不足だと思っている。まち全体で反発が起きている訳ではなく、細かいところで行き違いが起きた。現状としてそこまで大きく注目されて批判が起きたことはない。また、自分の話をする昨年作った作品が政治的なテーマを含んでいたため、少し批判されたしトラブルになったこともある。しかし、最初に摩擦が起こることがあっても、一つ一つきちんと解決すること。そして、真摯に作家としての責任を果たしていくことだと思う。(田坂氏)
→批判が起きることも一つの作品に対する反応。その反応を作家が知っていて行うことと知らないで行うことは違う。知っていて行う場合議論を深めることになるのは重要だが、知らないでただ怒られるのは段取りが悪いだけ。マクドナルドも作品を出したとき動物愛護団体の人たちが来て思いっきり言われたり、店に牛糞を投げつけられたりしている。その文脈をアートという中に引きずりだして議論できる場が一つ出来る。その時にメンタルでやられてはだめ。(中村氏)
→まちづくりの場面でも同じことが起きる。その時は関心を持ってくれた時点でこのことを評価する。そしてこの方とはもちろん良く話す。無関心と関心を持ってくれたのは天と地ほど違うレベル。同じ土俵に乗ってきてくれたので大事に、大事に付き合う。分かり合えて一生ちゃんと同じ向きを向いて同じことを言えるか解らないが、同じ土俵に上がってきてくれた方と、まったく無関心の方とはレベルが違うので、ありがたい気持ちでいる。(清水座長)
- ・熱海は自転車文化がない地域だが、関東圏からたくさんロードレーサーが来ている。海拔0メートルから標高800メートルまで街中を使って出来る場所は日本中では熱海しかない。レースを行いたいと思っているが文化がなくなかなか難しい。現在は車と自転車の距離1.5メートル離すと安全という運動を進めている。
- ・二つ言いたいことがある。一つ目は、熱海はアートに関する団体が多いと思うが、お互いのことをよく知らず、混じらない。そしてやっていることもあまり知られていない。どうすれば周知されるのか知りたい。二つ目は何かをしたいけど一つ二つ足りない人が多い。バラバラのパーツを持っている人たちが繋がれる場として、「妄想会議」をやる予定。周知の点を伺いたい。
→東京の3331周辺も同じ状況で、皇居から北側で大手町有楽町から谷中までのエリアをアップ東京という名前と言い始めた。言い出すことでエリアのイメージを付けたいと共に、広すぎる東京のエリアを限定することを始めた。その中で会議体をボランティアで作った。都市計画系の人を中心にしているが、大学の先生、企業、NPO、個人など3年間で200人ぐらいの人たちが関わることになった。

自分達のまちの中で情報を共有しようとなった時に、切り口として文化のことに対して共有するということがなかったことに気付いた。古くて歴史的な建物が壊されそうになっている時に、地域の方は反対しているが一步引いたエリアで見るとどうなのかという議論がなかなかされない。この場にこれだけの人がいるので、まずはこのフレームを活かして少なくとも文化に関して持続する会議体を作るのはどうか。アートの団体が多くいることはすばらしいことだが、お互いを知らないということはもったいない。そうならないように会議の場作りが必要であり、繋ぐ仕組みが重要となる。いままでバラバラに行われていたアート活動を一度一緒になって連例することを議論することが大事。(中村氏)

→別府における温泉とアートの繋ぎ方が参考になる。(清水座長)

→別府は混浴温泉世界というネーミングが良かった。文化的レイヤーが海外に打ち出そうとした時に深まった。かつ市民活動レベルのことをちゃんとやっていることも良い。まちの小さな活動を育てていたことが良かった。(中村氏)

→そしてこれが宿泊客を増やす活動に繋がっている。熱海の旅館の方々とのように一緒にやるのがポイント。(清水座長)

→宿泊業界とアートを結ぶ縦軸というのは本当はない。例えば、客室にオブジェを置くことはいくらでも可能だと思っている。そこでマネタイズできるかどうかは分からないが、協力はできる。レイヤーが分断されているのはまさにそのとおりで、この2030会議が直接縦軸を繋ぐものになるかは分からないがそのような想いで市の方はこの場を作っているように思われる。実行委員として動かなければならないと思っているし、もっと楽しいことができると思っている。(内田委員)

→チャンスはいっぱいあるし、この会議に参加した人たちを中心に繋がっていき作るしかないのではないのでしょうか。やればできます。(清水座長)

→今の話を聞き、アートフェアをやればいいのではと思った。ホテル・温泉地で作品を展示することはいまとなっては普通。そうではなくてホテルの個室に作品を置く。外から来た人はそのまま宿泊でき、作品を展示したあとにそのままその部屋で寝ればよい。そして宿泊料金をそのまま払う。ただ違うことは宿泊する場所に一般の人がどんどん入ってくるだけ。世界ではアートフェアが普通に行われている。ホテル・旅館も連携して熱海に来ている富裕層にお金を使わせることを考えることも必要ではないか。(中村氏)